

加熱式タバコと健康 使用実態・科学的評価の現状と今後の課題

はじめに・・・このシンポジウムのねらい

遠山 千春

環境健康科学技術 国際コンサルティング (HESTIC)
東京大学

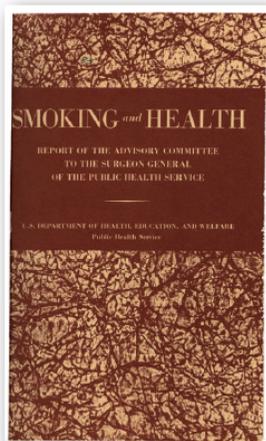
利益相反: 演題発表に関連し開示すべき COI 関係にある
企業・組織および団体等はありません

圧倒的な科学的証拠と徹底的な因果関係の評価 科学から政策への「橋渡し」

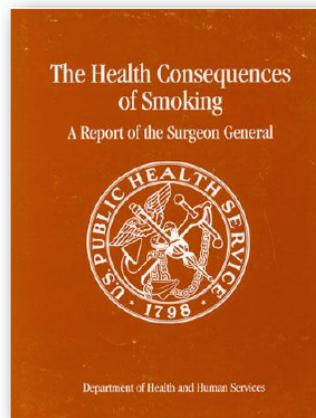
米国保健省
公衆衛生総監報告書

「因果関係～メカニ
ズムの推論」

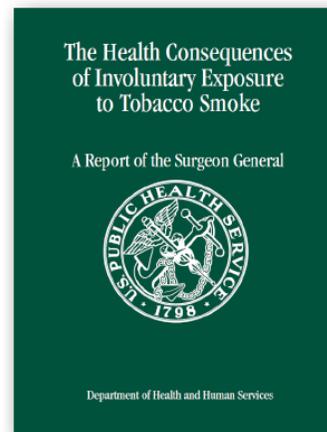
CDC Office on
Smoking and Health



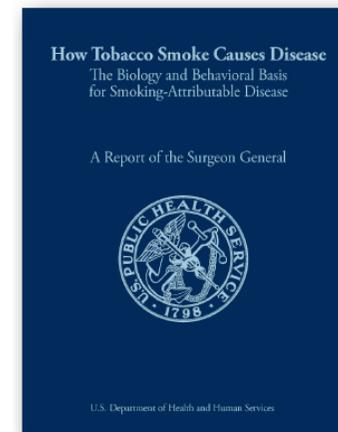
1964年第1巻
「因果関係の推論」



1964年第1巻から40年後
2004年910p



1986年359pから20年後
2006年709p

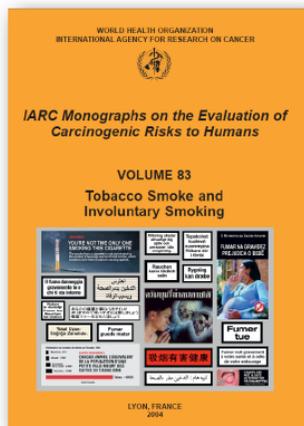


1964年第1巻から30巻目
2010年704p
「メカニズムへの言及」

**“Science is clear.
Debate is over”**

世界保健機関
国際がん研究機構
(IARC)モノグラフ

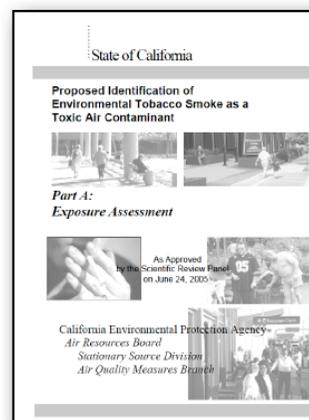
「たばこ煙は、
グループI (ヒト)
発がん物質
～閾値なし」



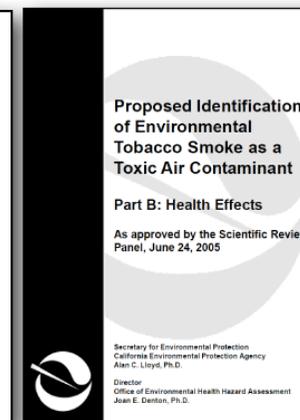
2004年第83巻1452p
(1985第37巻291p、1986第38巻421p)

カリフォルニア州
環境保護局(EPA)

「たばこは、
有害大気汚染物質
～閾値なし」



2005年250p+526p



(原図:望月友美子先生)

紙巻タバコから加熱式タバコへの販売方針の転換

”環境中タバコ煙への曝露と非喫煙者の疾病発生率の上昇との統計的関連性は立証されていない” (JTのHP)

“...紙巻たばこより害の少ない製品の開発に力を注いでいます”
(フィリップモリス社 (PMI)の HP)

“PMIの目標は、リスクを低減する可能性のある製品 (RRP)が
いつか紙巻たばこに取って替わること” (PMIの HP)

日本における加熱式タバコ製品の急速な普及



アイコスIQOS (PMI)
プルームテック Ploom TECH(JT)
グロー glo (BAT)

2018 たばこ製品の20%以上(推定)



加熱式タバコに関する状況認識

- 加熱式タバコ健康影響に関する科学的知見が不足
医学研究者の間でも知見共有は不十分
- 公衆衛生の原則とは、健康を増進し命を守るため、新たな製品(医薬品・化学物質等)を市場に出す前に、安全性/危険性を評価し、予防的な措置をとること
- 日本にはタバコ産業振興の法律は有るが、公衆衛生面でタバコ規制の法律が無いため、世界に先駆けて加熱式タバコの普及が急速に上昇中
- 健康増進法改正案における加熱式タバコの規制は紙巻タバコよりも緩い

加熱式タバコと健康に関する疑問と論点(1)

- 喫煙により体内に入る有害化学物質の種類と量の実態
- 曝露量と健康リスクとの用量・反応関係
- 非喫煙者が受ける受動喫煙の程度と実態
- “ハーム・リダクション(害の削減)”の考え方
- 加熱式タバコ (IQOS, glo, Ploom TECH) は、紙巻タバコよりも健康リスクが低い、との学術論文の妥当性・信頼性

加熱式タバコと健康に関する疑問と論点(2)

- 健康(循環器・呼吸器系、免疫系)への影響
- ニコチン依存性
- ニコチン伝送システムとしての加熱式タバコ
- 紙巻タバコを止めるためのステップとなるのか、それともただちに禁煙外来に行くべきか？
- 若者へのタバコの導入(Gateway)となるのか？
- 国内外での使用ならびに対策の実態
などなど。

このシンポジウムのねらい

喫煙と健康影響に関して造詣の深い講師により、加熱式タバコの影響に焦点を当てて、

- 加熱式タバコと健康に関わる基本的な問題点、ならびに最新の科学的エビデンスに関する知見を紹介・解説していただき、聴衆の方々と共有すること
- 今後、研究者それぞれの立場、また、日本医学会連合として、推進すべき学術的な課題を検討すること

追記： たばこメーカー（PMI, JT）に対して講師派遣をお願いしたことを付言する。